

ハジャセンター

・ハジャセンターの目的

ハジャセンター(①)では親がつけた名前ではなく、自分でどんな思いで生きてきたかを考え、それにあった新しい名で呼び合っている。性別、出身を超えて人間存在を認めるためでもある。

ハジャセンターは1999年に創立された。青少年の創造的な教育のための活動を目的としている。ソウル市がヨンセ大学に運営を任せている機関。労働部、共に働く財団と連携して創造的な取り組みをしている。

・事業内容

社会的ビジネスづくりや働く場づくりのサポート、子どもから高齢者までの教育など。

10代に対しては職場で活かせる能力の向上や、成長の為の教育、創造的な仕事づくりができる人材の育成をしている。20代~30代に対しては社会的企業をつくる教育をしている。

・貧困層の子どもたちのための就労支援

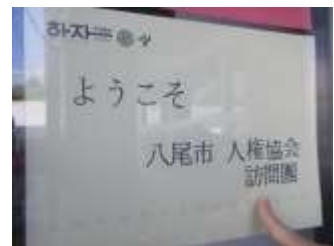
ハジャセンターの3階はハジャ作業所学校がある。学校に通えていない子どもたちが通う学校。今年の前半には経済的貧困層の子どもたちのための教育が行われた。

・ハジャセンターの事業団

ハジャセンターでは10の社会的企業としての認可をうけている事業団がある。その中でも大きいものを紹介する。



①



②



③



④

Noridan

エコパフォーマンスとして2004年から廃材で楽器(⑤)を作って公演をしたり、その楽器作りのワークショップなどをしたりしている。2007年に労働部から認可を受けた社会的企業。CMに出たり、日本に演奏にきたこともある。参加者は10代から50代と幅広く、みんなで働きながら遊ぶという、コミュニケーションを大切にしている。

現在68名が雇用されており、12億ウオンの利益がある。



⑤

③: 職員の解説

④: 施設案内

Yori

2007年から楽しさを料理、学ぶことを料理、正直に料理をキーワードにいい素材を使って体にいいものを提供している。主に、青年、女性、結婚移住女性が働いている。フィリピンやロシア、インドネシアなどの多文化料理をケータリングやカフェなどで出したりもしている。さらに障害者の子どもたちの料理教育もしている。例えば、パンづくりのワークショップをし、パン創業へ繋げている。

・訪問時の様子

訪問時も沢山の中学生と見られる子どもたちが衣装の縫製の職業体験に来ていた。託児所などもあり、安心して活動できる環境が整っていた。また、ノリ団の事務所にいた青年たちなども明るく、とても楽しそうに働いている様子を見ることができた。

ハジャセンター敷地内には性教育センター(⑩)があり、性教育を教えたり、ジェンダー問題を考える施設も存在した。



⑥



⑦



⑧



⑨



⑩

⑥、⑦、⑧はヨリの様子
⑨はパンフレット

安山市外国人住民センター

・安山市外国人住民センターの概要

安山市外国人住民センター(②)は2008年3月に開設された行政サービス機関。場所は安山市の中心に位置する多民族文化特区内にあり、安山市は人口73万人のうち、外国籍者が33000人、55カ国に上る。(09.5.31現在)未登録者を加えると5万人を超えているとされている。

センターは年中無休で活動している。通訳支援センター、無料診療センター、外貨送金センター、多言語図書館(⑤)、人権保護、教育プログラム、家庭支援などを行っている。現在、事業費は14億ウォン。月13000人の利用に対し、27人の市職員で対応している。

・主な支援内容

通訳支援に関しては今までに相談件数が41000件を超し、12言語に対応している。また応急支援として、緊急治療や医療費補助、帰国旅費の負担などを行っていたり、法律相談等も行っている。最近では家族招聘事業も行い、安心して暮らせる環境づくりに取り組んでいる。

・治安維持

特別巡回隊や防犯隊、外国人特別治安センターや多文化地区隊など、細かく役割を分け、機敏に対応している。

・対象者

国民生活基本法の雇用許可制で来た人は保護の対象にならない。低賃金で生活が困難であることが前提として永住資格のある人は対象となる。オーバーステイの人がいると、公務員として通告しなくてはならないという義務がある。しかしながら、無料診察に関しては民間事業なので、緊急であれば、対象者でなくても処置するし、オーバーステイの人を捕まえるというのは国家の仕事であり、住民センターの仕事でない。住民センターの仕事は困難者に対して支援をすることである。一切の支援を切るとさらに問題が大きくなりかねない。

・運営

民間企業と協同で運営している。(株)テウインターナショナルが東南アジアで出た利益は東南アジアに返したいという思いから、住民センターが建つ土地の無料提供が行われた。また、通常業務も民間団体に委託している。言語でトラブルがあった場合、通訳を派遣している。



①



②



③



④



⑤

- ①各国の国旗
- ③施設説明
- ④多言語相談

安山市移住民センター

ここでは事務局長がお話をしてくれた。(資料を報告後に添付)

・安山市移住民センターの概要

安山市移住民センター(①)は基督教の宣教団体。しかし一般的な宣教活動ではなく外国人のための人権や福祉の活動をしている。もしイスラム教の方がいれば、ラマダンなどの宗教的な配慮もしている。

韓国では90年代の初めから外国人が多くなってきたが、ちょうどそのころの1995年に設立された。はじめは産業研修生に対し、労働界と一緒に支援しようと考えた。

90年代に入り、労働組合が沢山できたため、労働組合運動をどう盛り上げていくかばかりに目がいき、外国人労働者にまで考えが及ばずにいた。一方で、その人たちに対して「疎外された人たち」として支援をしたのが宗教関係の人々だった。

初めは産業研修生たちだけだったが、結婚移住者や中国、朝鮮族の人たち、難民の人たち、その家族を支援するようになった。このように移住してきた全ての人たちへの支援をするように変化した。

・定住労働者のために

また2000年以前は国に帰っていく人たちの支援をしてきたが、2000年以降は一緒に暮らす人々という感覚で、支援を始めた。2005年には1万件の相談が寄せられるようになっていた。

その中で労働の相談が半分を占めていたが、その他の問題も沢山あることに気が付いた。

以前は短期間な労働相談などのプログラムが多かったが、今は共生のための定住に関わる長期的プランを考えるプログラムを組んでいる。しかしながら政府は未だに定住政策をとっていない。

安山市移住民センターでは①子どもの問題、②保育事業や放課後授業、③移住女性のための多文化工房を通し、労働者の自信を取り戻してもらい、自分たちが韓国経済に影響を与えていることを理解してもらうを行っている。

・外国人市場の確保

移住民がどのようにして労働市場の中に入っていくか。今は4つの事業により市場づくりをしている。



①



②



③



④



⑤

②、③、④は街並。
⑤は中国食品の看板

《4つの事業》

- ①フィリピン女性の英語講座
- ②ベトナム女性の麵食堂
- ③多文化工房というものづくりをする場(⑦)
- ④多文化保育養成、文化を伝える講師をしたり、子ども達のケアをする活動



⑥

・韓国人社会の中の韓国人

今、事務局長の関心があるのは韓国人自身についてである。

今は 2%の外国人を韓国に同化させる政策が取られている。しかしながら私たちは 98%の韓国人の意識変化をすることが大事だと考えている。その概念の下、センターでは「国境のないむら」運動を実施している。外国人がいる…だから差別をするな！というものではなく、多勢に対する差別的な考えや行動を無くしていこうという運動だ。

韓国では外国人の男性と結婚する女性も、韓国人の女性と結婚する

外国人男性も差別的な目で見られる。しかしながら現在 90 日以上の滞在者は 85 万人いるが、その中で半分は中国の朝鮮族の人である。また 16 万人は結婚移住とその家族だ。そのように考えると純粋な外国人は少ない。つまり外国人問題というが、これは同族の問題と言い換えてもおかしくない。また、今海外に住んでいる同胞は 700 万人、朝鮮半島の 10%に当たる。

コリアンは世界で、民族的なマイノリティとなっているが、韓国の中でもどうすればいいのか分からない状態である。政府は外国人の定住に関しては禁止している。そういったことが影響して、移住者が脆弱階層になることを止めなくてはならないと考えている。



⑦



⑧



⑨

・オーバーステイの人たちの問題

オーバーステイしている人たちは産業地帯や工業地帯で安い賃金で働いている。この人たちは韓国が必要としているから韓国で働いている。しかしながら、人権や生活に対する国からのサービスは法律で全く保障されていない。

ビザがないので、社会被害を受けても弱い立場にいる。例えば、強盗にあっても訴えることができない。



⑩

・安山市移住民センターの想い

ここには30か国の店がある。また、韓国で中国籍の朝鮮族が一番多いまちでもある。外国人が多いということで、不便、危険というイメージを多くの韓国人が持っている。しかし、安山市移住民センターはそのイメージを楽しいまちというものに変えたいと思っている。

- ⑥ 特区を表す
- ⑧, ⑨ はアートな情報バー
- ⑩ はタイ料理屋